

平成29年 7月27日

守谷市議会議長 殿

委員長： 川名 敏子

報告者： 渡辺 大士

## 都市経済常任委員会 視察・研修報告

標記の件について、次のとおり 実施・参加 したので報告します。

視察・研修日	平成29年 7月19日 (水)
視察・研修場所	福島県 福島第二原子力発電所
視察・研修項目	防災、研究
参加者	守谷市側 川名敏子、長谷川信市、渡辺秀一、高梨隆、神宮栄二 渡辺大士、梅木伸二、議会事務局 望月理恵、交通防災課長 高橋賢一郎
	相手側 TEPCO竜ヶ崎支社水海道エリア担当 川又慶一 TEPCO竜ヶ崎支社渉外担当 大木 茂 TEPCO竜ヶ崎支社長 埴 裕彦 福島第二原子力発電所副所長 原子昭洋 福島第二原子力発電所広報部長 田中和夫 福島第二原子力発電所リスクコミュニケーター 櫛田英則 福島第二原子力発電所広報推進グループリーダー 藁谷利孝
視察・研修目的	東海第二原子力発電所が今年度に20年延長になる可能性がある ので現在の福島状況と原子力発電所内部を自らの目で 見て今後の守谷市の防災を考える。
視察・研修内容	福島第二原子力発電所の概要説明 現場施設内部視察

## 視察・研修内容

### 視察・研修総括 (今後の取組み等)

福島第二原子力発電所ビジターズホールにて福島第二原子力発電所の概要説明を受け、現場視察のスケジュールを確認した後、着替えて現場視察を行った。

現場視察ではまず入口のセキュリティ説明、体験から始まり東日本大震災当時の状況とその際の対応の説明を受けながら施設内部を見学した。災害当時の津波の被害や津波がどのような状況を引き起こしたか、現在はどのようにして対応策がとられているか原子炉建家の周辺をまわり説明を受けた。

また建家内部にも入り、建家内の構造、福島第一原子力発電所との違い現在の状況等の説明を受けながら見学した。

見学の際は線量計を各自装着し、見学終了時に被爆検査を行いどの程度内部で被爆したかを確認していた。各委員共に0.01~0.00  $\mu$  Sv/h の被爆であった。現場視察終了後は再度ビジターズホールへ戻り質疑応答を行い視察は終了した。原子炉建家内まで見学したことにより、視察終了後 TV 等で内部の映像を見た際、内容がよく頭に入ってくるようになりより注視観察することができるようになった。

現在、現在福島第二原子力発電所は発電所としては機能していないが職員が毎日約 500 名程度作業にあたっていること等を考えると原子力発電の費用対効果は高いとは思えなかった。原子力発電所から 100km 圏内にある本市においても今後のエネルギー政策、住民の安全、安定供給についてより一層考えるいい機会になったと感じた。現在の福島第二原子力発電所における安全対策、災害対策に関しては、現状出来るうる最大限の配慮を行っているように感じたが、それに係るコストが電気料金に上乗せされていくことを考えると今後の原子力発電所の新設、再稼働については住民の理解を得るのは一層難しくなるのではないかと感じた。